

だいじろうどうしかい  
きくち大二郎同志会だより

第8号 平成27年10月3日発行 きくち大二郎同志会広報部

変えられる 『予感』  
変えていく 『勇気』



志  
ひとつ。

『予感』  
よかん  
感』

だいじろう  
きくち大二郎同志会の連絡先

〒995-0032 村山市楯岡荒町一丁目1番43号  
電話 兼 FAX 0237-55-7211  
メール info@kikuchi-daijiro.com  
きくち大二郎オフィシャルサイト  
<http://www.kikuchi-daijiro.com/>

だいじろう  
きくち大二郎同志会へご入会ご希望の方は、  
お気軽にお問い合わせください。



# せんちゅうはっさく 村山版『船中八策』～きくち大二郎の八つの思い～ “攻め”の村山へ新たなる船出！

## 八策・その一 意識改革なくして村山の未来なし。

「できる・できない」を語る前に「やろう」という意志が大事。意志のないところに道はない。まずは、私たち一人一人の心を変えていかなければ、何も生まれないし、何も始まらない。

## 八策・その二 実のある構造・制度改革に着手せよ。

二重・三重行政を解消し、ムダをなくしていく。行政や民間がより円滑かつ合理的に作用していくような制度、または村山独自の制度づくりへ。

## 八策・その三 あらゆる環境の見直し・整備へ。

環境が人を育てる。一方でその環境をつくるのも人の役目。

教育（子育て）、雇用（労働）、若者、高齢者、障害者、自然（里山や田畑）など様々な環境のあるべき姿、目指していく形を確認し、改善をはかろう。

## 八策・その四 『物語（点と線と面）』が見える、夢のある都市計画事業を。

事業の前進には、夢のある、行政の力強いリーダーシップが特に必要。

村山の観光地やその周辺施設には、一貫性や人の流れが見えてこないものも多く、点と点が散らばり、足を運ぶための物語が想像できないのが現状。

点をつなぐための線（道路やネットワーク）、線を面にしていく周辺の土地活用に知恵を出していこう。

## 八策・その五 『エネルギー自立都市・村山』の推進へ。

『環境都市・むらやま』の構想を再確認し、水力（最上川）や風力（高台）なども活かしたエネルギー創出の構想づくりを。そして、市民の電力消費量を本市の自然エネルギーでまかなうという、全国に向けたモデル自治体のさきがけに。そのために、本市にある山形県環境科学センターや企業との連携による技術開発協力なども欠かせないだろう。

## 八策・その六 『オンリーワン（かけがえのない）都市・村山』へ。

消滅可能性が高いと推測されている本市（市制施行60年で約1万7000人近く減少）。過疎脱却、人口増加（減少を減らす）への道のりは厳しい。

だからこそ、北村山、山形県という広域を単位に本市の存在価値を高める視点を持ち、個性を活かした本市の役割を果たしていこう。

例えば、ベッドタウン型へ舵取りしていくなどの議論も必要だろう（目先の雇用創出は持続的な面で危険もあるため）。

## 八策・その七 『共生、共存、共栄都市・村山』へ。

老いも若きも、親や子や孫も、身体の不自由な方も健常者も、野生動物もペットも。あらゆる生きものが共に支え合い、

生き生きと生きていける安心の未来をつくっていこう。そのためには、当然に、環境、ルール、制度、施設づくりなどに今動き出すことが不可欠だ。

## 八策・その八 『文化発信都市・村山』へ。

なぜ、芸術やスポーツなどの文化に触れる必要があるのか。それを是非考えてみよう。本市には、身近な私たちがあまりに知らなすぎる財産がたくさん埋もれている。その精神をまずは私たちが知り、市外、県外、国外に大いに発信していこう。また、素晴らしい景観資源も活かして、古き良き文化、新しい文化の融合した芸術祭の開催なども実践していこう。

合併当時の市内『八』地区には、それぞれに個性がありました。

もう一度、原点にかえり、上記八策をもとに『八』地域の個性をよみがえらせることも重要です。

そのためには、私たち一人一人が村山に生きていくという強い意志と村山の良さを学ぶ心を持ち、そして何よりも今までの意識を変えていかなければなりません。

変えられる『予感』、変えていく『勇気』。まずは、そこからです。過去を尊び、未来を憂う以上に、今を響かせなければなりません。

せんちゅうはっさく  
船中八策とは……

激動の幕末時代、荒波を渡る船の中で坂本龍馬が提案したとされ、明治維新及び新時代の幕開けの『予感（よかん）』を巻き起こしたとも言われる、8つの基本的な構想のことです。今こそ、村山変革の『予感』をきくち大二郎とともに『実感』へと進めていきましょう。





# きくち大二郎のプロフィール

昭和57年 山形県村山市楯岡笛田（馬場）生まれ（33歳）

山形県村山市立楯岡小・中学校卒業

山形県立山形東高等学校卒業

学習院大学法学部法学科卒業

日本大学大学院法務研究科中退

東京都港区青山にて「行政書士菊池大二郎法務事務所」設立～

（本年より、故郷・村山市に移転し、活動中）

## 激励の紹介

- ① 大倉在住の同志の方より  
きくち大二郎君に贈る詞（うた）

### 志ひとつ

甌の御岳に雲が立つ 熱き志を胸に秘め

明日の村山 俺の手で作ってみせると

固い決意の大二郎

男子の本懐遂げてやる 沸る志を迸らせ

夜明の村山 皆の手で作ってやると

真男の大二郎

- ② 楯岡在住の同志の方より  
（ありがたい長文の激励のうち、一部抜粋にて）

第7号の同志会だよりの貴殿の抱負を拝読し、大変に感銘を受けるとともに心強さを感じました。流石は、県議に立候補されるだけの識見、そして訴える情熱が!! 当市には、豊かな観光資源や文化人が大勢!! ただ、導火線の役目を担ってくれる本格的なリーダーが残念ながら…。市政に活力を呼び起こすような実現性のある「夢」がもっともっと、といつも感じている一人です。

貴殿の論旨にはまさにキラリと光る文言を感じております。やがてこの町をぐいぐいと揺り動かすことを期待しております。

- ③ 楯岡在住の同志の方より（ご自身のご経験も重ねて、こちらの詩を紹介していただきました）

### 壁

だれだって

大きな壁に当たって

くじけそうになるときがあるだろう

でもそれは

壁のように見えているけど

もしかしたら

扉なのかもしれない

※ なお、お調べしたところ、上記『壁』という詩は、難病を発症し肢体不自由となった、当時19歳の愛媛県在住の二神達也さんによる作品のようです。

同志の皆様、本当にありがとうございます。

きくち大二郎は、感謝と初心を忘れずに、  
今後も精進して参ります。

内部資料

